

鹿児島県大島郡与論町朝戸方言の アスペクト

町 博 光

I. はじめに

(1) 調査対象地：鹿児島県と沖縄県の境に位置する小島が対象地の与論島である。奄美群島南端に位置し、行政区画は鹿児島県に属する。周囲21.9km、面積20.82km²。一島で一町を形成し、9小字からなる。人口7千人余。近年、人口の増減はほとんどなく安定している。

朝戸集落は、島のほぼ中央に位置する。

生業は、砂糖きび栽培を主とした農業である。漁業は自給程度。これに、大島柚の生産と観光業が加わる。鹿児島・沖縄本島那覇への船便・航空便とも整備されている。

(2) 調査年月日：1993年12月27日

(3) 話者：吉田ケイ 1928年生(66歳) 農業

町 寿江 1948年生(45歳) 公務員

(4) 調査者・調査場所：吉田氏宅で、町博光が面接でおこなった。

(5) 調査方法：吉田氏は、『方言資料叢刊』第1巻から第3巻までの話者。言語感覚の鋭敏な方で、細かい観察・内省を加えてくださる。調査は、町博光の内省をもとにして、吉田氏、町寿江氏に確認するかたちでおこなった。

(6) 表記方法：方言事象は音声記号で表記する。語のアクセントは付さない。文のアクセントは、高音部に棒線を付す。話者の説明は()で示す。例文は○印で示す。

II. 調査結果

- (昔は)よく行ったものだね ʔidʒaru ○ma:dʒiN ju: ʔidʒaru munu jaN. 一緒によく行ったものだねえ。(ʔitʃaru と言う人もいるかもしれない。) ʔidʒaru は連体形である。文末詞 munu に続くために終止形 ʔidʒaN の形をとっていない。自己の反復経験を言うばあい、ʔidʒaN を使う。
- (あのころは)おもしろかったなあ ʔmidʒirafatan ○wudui ʃitʃaiʃi mittan midʒirafatan jaN. 踊りをしたりしてとてもおもしろかったねえ。
- (もうちょっとで)落ちるところだった ʔutigisatan
- (今にも)落ちそうだよ ʔutigisai ○ʔwa:ʃo:. ʔutigisai do:ja:. あぶない。(財布が)落ちそうだよ。(「落ちそうだ」と自分の気持ちを言う時は ʔutigja: となる。) gisai が「～げさ+あり」だとしたら、共通語の「だ」にあたる言いかたは現在形の「あり」をとり、共通語の「だ」に対応しない。
- (財布を)落として ʔututʃi

6. 困っている ɁawarifitʃUN 「困っている」に対応する語はない。Ɂawari (苦勞) + fitʃUN (している) の形をとっている。
7. (一本の蠟燭が今にも) 消えそうだよ ki:gisai O^{ro}:sokunu ki:gisai do:ja:.
蠟燭が消えそうだよ。(「消えそうだ」と自分の気持ちを言う時は ki:gja: となる。)
8. (今) 消えようとする ki:rantʃi Ɂei 逐語訳をすれば、「消えらむて+だ」となる。「消えようとしている」という表現である。また、その状況を感情をこめて説明すれば、「ki:ran ki:ran fitʃui 消えよう消えようとしている」とくり返し語形を用いる。
9. (完全に) 消えた ki:ti (たとえば Ɂukki:ntana tʃurassa ki:ti. 燵まできれいに消えた。)となる。)
10. (すでに) 消えていたよ ki:tutan
11. (何本もの蠟燭が順に) 消え始めた ki:padzimju:tan Oro:sokwa: ti:tʃina: ki:padzimju:tan. 蠟燭は一つずつ消え始めた。
12. (何本もの蠟燭が次々) 消えていくなあ ki:jui 「消えゆる」からか。
13. (何本もの蠟燭が順に) 消えているよ ki:tiɁikjui 告知のときは、「～ていく」の形をとっている。
14. (何本もの蠟燭が全部) 消えているよ ki:tui O^{Ɂai} na: mu:ru ki:tui do:. あれ、もう全部消えているぞ。
15. (何本もの蠟燭の火を次々) 消しているよ kja:jui 「消す」の他動詞の終止形は kja:ʃUN である。
16. (もう全部) 消しているか kja:tʃanka
17. (今にも桜が) 散りそうだ Ɂutigisai 「散る」の対応語はなく、「落ちる」に対応する ɁutʃUN で「散る」の意を表す。
18. (ちらほらと) 散り始めた Ɂutipadzimitan Ɂuti「落ち」+ padzimi「始め」+ tan「てある」>「落ち始めたる」のように考えられる。
19. (今現に) 散っている Ɂutjui O^{mitʃimi}:. pananu Ɂutʃul. 見てみる。花が散っている。
20. (桜の木がすっかり) 散っている Ɂutitai O^{kitʃimi}:. pananu mu:ru Ɂutitai. 来てみる。花が全部散っている。進行態と結果態とを区別している。進行態は Ɂutju i で、落ちゆる>落ちゆり*>落ちゆい*>Ɂutjui と考えられる。結果態は Ɂutitai で、落ちてあり>落てたり*>落てたい*>Ɂutitai と考えられる。
21. (地面一面に) 散っている Ɂutitui O^{pananu} ja:nume:ma:gi: Ɂutitui do:ja:.
花が家の前じゅうに散っているぞ。
22. 今にも降りそうだ puigisai
23. (あの時は今にも雨が) 降りそうだったなあ puigisatan

24. (あの時はもう実際に雨が)降っていたよ pututan ○ 2anninja ŋa: 2u: 2ami pū
tūtan da:. あの時はもう大雨が降っていたよ。
25. (あの時はやがて夜が)明けようとしていたよ 2a:garantji jifjutan (「明け
ようて」+「していた」)のように、見出し項目の直訳となる。
26. (来年の今ごろは家を)建てている tfukutukutu
27. (来年の今ごろは家をすでに)建てている tfukutukutu (特別に完成しているこ
とを言いたいばあい、tfukuti naratjakutu<作ってすましてあるから>のように、nar
atji を入れる。)
28. (あの家はよく)磨いてある migatjai
29. (隣の犬が)鳴いている natfui
30. (隣の子が)泣いている natfui
31. (こどもたちが)喧嘩している zekkoi jifjui (喧嘩のことは 2o:2e: とも言う。)
32. (家に)いるかなあ wujunge:ra/wunge:ra (ていねいに言うばあい wujun を使
う。)
33. (○○さん)いるか wujummi:/wummi:/wu(ju)mmui/wu(ju)ntfi: (mui はやさ
しく言うばあい、mi: はふつうに言うばあい、tji: はいることを確認するばあい。)
34. (ああ)いるよ wujun/wun ○wujun tji. いるよ。(「まだいる」という気もち
が含まれている。) ○wujun do:. いるよ。(「いる」ということを強く言いたいばあ
い。)
35. (そういう人も)いるよ wujun/wun
36. (あなたは今何を)していたか jifjutan ○ 2uro: nama nu: jifjutag ŋa. おま
えは今何をしていたか。
37. (私は今金魚を)見ていたよ mitjutan
38. (金魚が今にも)死にそうだ jipigisai
39. (やっぱり金魚は)死んでいたよ jidzutan
40. 読み始めていた jumipadzimitutan
41. 読み始めたところへ(～た) jumpadzimitarutu:rukati 方向格の「へ」は kati
である。
42. 着くと同時に～した tfikju:jituma:dziŋ ma:dziŋ は「同時に」の対応語である。
43. 着くと同時に～してくれ tfikju:jituma:dziŋ
44. 鳴りつづけている 2enji natui 2enji は副詞の「ずっと」にあたる。
45. (先生は今何を)しているか jifji2entfiga tfiga は、接続助詞の「て」と疑問
助詞の「か」の複合語にあたる。
46. 好きだ haminfai 形容詞と形容動詞の区別はない。
47. 見られているのも mja:ritufin ○mja:ritufin saŋaŋe:ji nibuifudzui. 見られ

ているのも知らずに居眠りしている。

48. (今、運動会が) ある 2ajui ○Jo:gakko:nonti 2undo:kāInu 2ajui. 小学校で運動会がある。格助詞「が」は nu で表される。
49. (降らなくて) よかったよ jukati 2e:taN jukati は名詞形「良いこと」、2e:taN は「であった」に相当する。
50. (先生がこっちへ) 来つつある 2ei 連れの人に客観的に「来つつある」状況を説明するのであれば、-ri 終止形をとる。2ei は「いる、来る」の尊敬動詞である。「来る」動詞を使った言いかたは認められない。
51. (犬がこっちへ) 来つつある kjui ○2amakara wa:tjaga 2inunu kJūi. 向こうから家の犬が来ている。kjun と -N 終止形をとる時は、「向こうから来るだろう」との予測を示す表現となる。
52. 似ている ① nitjui ② nitjun ①は、さまざまな状況から判断して、「似ている」と結論をくだしているばあいであり、②は他人に自己の判断である「似ている」ことを知らせるばあいを使う。
53. (一週間も前から遊びに) 来ている kitjun 友達に言うときは、kitjun と -N 終止形をとる。kitjui と -ri 終止形をとるばあい「一週間も来ている」という驚きの表現となる。
54. (昔から) 苦労していない 2awari jitjurannu
55. (今はあまり) 苦労しないでいる 2awari jiraggage:jui jui は jiwui とも言う。
56. ~は売っているが、~は売っていない ~2utufiga、~2uturannu
57. (昔からタバコを) 売っている 2utun
58. (今、大売り出しで衣料品を) 売っている 2utun 57との差は認められない
59. (もう三回) 来ている kitjun
60. (いつも) 来ている kitjun
61. (昔はいつも) 来ていた kitjutān
62. (前に一度) 行っている 2itjutān/2ittjutān ○2anu misekatja: me:N tjukk e: 2itjutān. あの店には前にも一回行っていた。
63. 先に行っておいてほしい 2ittjutin
64. 待っていなさい ① mattjuri ② mattjuki ①②ともに使う。②が古い用法の意識がある。
65. (外に) 待たせてあるよ matatjun
66. 食べておいてくれ ko:tuki ○dunnaku naju:kutu ko:tukjo:. 遅くなるから食べておけよ。ko:tuki には、「ko:ti (食べて) + wuki (おけ)」の意識が読みとれる。
67. (昔と) 違っている tfigo:tui 客観的な判断をくだす場合が -ri 終止形である。(昔は蘇鉄味噌だった。昔と mittān tfigo:tun「ひどく違っている」と個人的感情を

述べる際には-N終止形をとる。

68. (昔は今のと)違っていた tʃigo:tutaN
69. (毎日梅干しを)食べている ko:tun (ko:tunは“自分のこと”を言う。“他人のこと”を言う時は ko:tuiである。)
70. (毎朝)している ʃitʃun
71. 気をつけていて(～した) ki:tʃikituti
72. 行ったまま ʔidʒarumama ʔidʒaruは活用としては連体形である。終止形「行った」は ʔidʒaNとなる。ʔidʒanmama*とは言わない。
73. ～しながら ʃuggantʃana ʃunは「する」の終止形。-gantʃanaはガテラ系統の語かもしれない。
74. ～の途中で～する ʔikʃuggantʃana
75. ～の途中で～した ʔikʃuggantʃana
76. ～の途中で止めて～した jumikakiti/jumikaiti (jumikakitiは年配の人が多く使う。)
77. ～したばかりだ judarubakkai
78. 無くなっている ne:natui
79. 無くなるぞ ne:najun
80. 掛けておいた kakitutaru/kaitutaru
81. 並んだ本 naraduru
82. 並べた本 ① narabitaru ② narabituru (両方とも同じように使う。差はほとんどない。)
83. ～しておこうか judukan (judukanはjudiʔukanからと思われる。) ○ $\overline{na\mu}$
 \overline{anukiN} $\overline{ju\dot{d}ukan}$ de:. 今のうちに読んでおこうか。
84. やってあるか ʃitʃaN
85. 壊している kjo:tʃui
86. 壊れている kjo:ritui
87. 壊されている kjo:saritui
88. のけてある ① jinnatʃaN ② jinnatʃai (若い人は dukitun「どけてある」を使う。jinnatʃun「のける」は年配の人が使う。①は自分自身でのけたときであり、②は他人がすでにのけてあるばあいを使う。)
89. 書き終わった ① katʃaN ② katʃi naratʃaN (「終わった」を言い表すのには naratʃaNを使うほうが多い。)
90. 書いてしまいなさい katʃinaraʃi ○ $\overline{zussaga:ma}$ $\overline{pe:ku}$ katʃinaraʃi. たったそれだけ(ぐらい)早く書いてしまえ。
91. 書いてしまう ① kakʃun ② kakʃui ①は自分が書いてしまうことを言い、②は

他人のことを言うばあいである。ただし、自分のばあいでも、他の人に説明するばあいは②を使う。

92. 書いてみた katjimitʃan

93. (孫は今)入院している JitʃUN

94. (弟も今)入院しているそうだ JitʃUN iʃu:sa tʃu:sa は伝聞の「そうだ」にあたる。

95. (きっと)よくなるよ natikjun Oʃo:dʒo:so:ka ʃitʃurabo: kanna:dʒi ʃutaʃ iku natikjun. 養生さえしていれば必ずよくなってくる。

96. (だんだん)よくなるよ natikjun Oʃo:dʒoso:ka ʃitʃurabo: denden ʃutaʃiku natikjun. 養生さえしていればだんだんよくなってくる。

97. 歳とるとね、 tʃʃitʃutiku:bo: (「歳をとってくると」と言う。)

98. なおらなくなるよ no:rigurifa natikjun (「なおりにくくなってくる」のように言う。)

99. (1) (犬が)怪我したので 言わない

(2) (こどもが)怪我したので 言わない

(3) (お父さんが)怪我したので 言わない

(4) (雨が)降ってきたので 言わない

100. (1)C (2)B (3)C

III. 総括(まとめ)

「花が散っている」に対応するアスペクト表現は、2utjui と 2utitai の二形がある。それぞれ進行態と結果態とに対応する。2utjui は、落ちゆ(よ)る>落ちゆり*>落ちゆい*>2utjui と考えられる。2utitai は、落ちてあり>落ちてたり*>落てたり*>2utitai と考えられる。

共通語と比較してもっとも特徴的なことは、終止形の系統の違いによる表現差が認められることであろう。調査項目52で述べたように、-ri 終止形のばあいは客観的な判断となり、-N 終止形のばあいは主観的なもの言いとなる。調査項目88の jinnatʃun は自分の行動について言うのであり、jinnatʃai はその状態について説明しているのである。

「起きる」を例にとると、以下のような一覧表が作成できる。

語	幹	反復経験	完了	進行	継続	将然
ʃui	N終止	ʃuitutan	ʃuitan	ʃuijun	ʃuitun	ʃuigisan
	ri終止	ʃuitutai	ʃuitai	ʃuijui	ʃuitui	ʃuigisai

朝戸方言のアスペクト

(まちひろみつ・広島大学教育学部)